



あたごふれあい人権文化センターだより

2023年8月1日発行

発行：あたごふれあい人権文化センター
住所：〒682-0846
鳥取県倉吉市鴨河内1818-2
電話：0858-28-5440 (FAX兼)
E-Mail：atago@ncn-k.net

あたごふれあい人権文化センターだより
「心ゆたかに」に関するご意見・ご要望を
お寄せください。

なぜ人間は、お互い仲良く、平和に暮らせないのだろう。

「アンネの日記」より

8月15日、78回目の終戦記念日を迎えます。終戦記念日は、戦争を知らない世代にとっても受け継がなくてはならない大切な日です。

第2次世界大戦中のヨーロッパで、ただユダヤ人であるという理由だけで差別と迫害を受け、ガス室などで600万の生命が奪われました。その中には150万の子どもたちがいたと言われます。ホロコーストの真実を知り、この世界から差別や偏見をなくし、平和を実現するために、自分にもできることはないかを共に考えていきましょう。

ホロコーストとは

「ホロコースト」とは、ギリシャ語で「火で焼かれるいけにえ」を意味します。(「ホロス」=すべて、「コースト」=燃やす、の意)17世紀末には「大虐殺、皆殺し」を意味するようになりました。現在では、ナチス・ドイツ(1933~1945年)による、600万人のユダヤ人を中心とした大量虐殺をあらわす言葉として知られています。1948年の国連総会は大虐殺という犯罪を、「明確な意図を持って国家、文化、人種、宗教などで結ばれた人々を全員あるいは一部、殺りくする行為」と定義づけました。ホロコーストはその実例です。

ユダヤ人差別とヒトラーと第二次世界大戦

ユダヤ人に対する差別と迫害は、ことにヨーロッパにおいては長い歴史をもっています。今から二千年ほど前、国を追われたユダヤ人たちは世界中に散らばっていきました。キリスト教の広まったヨーロッパでは、宗教や生活・文化の違いからさまざまな差別が起こり、また、国の政策が変わると、ユダヤ人が犠牲となることが多くありました。

1933年、アドルフ・ヒトラーがリーダーとなったドイツのナチス党(国家社会主義ドイツ労働党)が、選挙によって政権につきました。第一次大戦で敗北したドイツは、経済的、社会的に混乱し、それに拍車をかけて政治的不安定がありました。特に1929年の世界大恐慌により失業者が続出し、人々の不満は頂点に達していました。ナチスは、「ユダヤ人がすべての問題の原因である」という考えをもっていました。

1935年9月、差別法であるニュルンベルグ法により、ユダヤ人はドイツ市民権を奪われ差別はいよいよ激しくなりました。ドイツ人とユダヤ人の結婚は禁止されました。

1939年9月1日、ドイツ軍はポーランドに攻め込み、第二次世界大戦が始まりました。その直後、すべてのユダヤ人は黄色い星のバッジをつけなければならないという命令が出されました。これは、ポーランド、オランダ、ハンガリー、ギリシャ、さらに北アフリカなど、ナチス占領下のユダヤ人の目印となりました。

差別落書きは重大な人権侵害です！

※差別発言に遭遇した場合や差別落書きを発見した場合、また悩みごと、生活に困っていることなど、人権政策課または最寄りの人権文化センターへご相談ください。

人権政策課 TEL0858-22-8130

あたごふれあい人権文化センター TEL0858-28-5440



ナチスはそれ以前から、ゲットーと呼ばれるユダヤ人居住地域を各地につくり、すべてのユダヤ人をそこに住まわせる決定を下していました。最大のゲットー、ポーランドのワルシャワでは、1.5キロメートル四方の地域に50万人ものユダヤ人が押し込められ、苦しい生活をさせられました。

1941年6月21日、ヒトラーはソ連にも攻め込みました。ドイツ軍と共に「アインザッツ・グルッペン(移動特務班)」がユダヤ人をかり集めては、銃殺していき8ヶ月以上にわたり、およそ100万人ものユダヤ人を殺していったのです。

1942年1月20日、ベルリン郊外のヴァンゼーで会議が開かれ、そこで全ヨーロッパに住む1,100万のユダヤ人抹殺計画が決定されました。そこで六つの「死の収容所」、絶滅収容所が建設されました。人々は貨物列車、家畜運搬車に乗せられ、ひどい状態で移送され収容所に着くまでに多くの人々が死んでしまいました。収容所に着くと、人々は長い列に並ばされ、「選別」が行われました。病人、子供、老人などが一方の列に、若くて働けるものは、もう一方の列に並ばされました。ガス室に送られ即座に殺される人々と、強制労働のためにしばらく生かしておかれる人々に選り分けられました。

ユダヤ人を助けた人々 そして私たちは・・・

この恐ろしい時代に、スウェーデンの外交官ワレンバーグや、日本の外交官杉原千畝、ドイツのシンドラーなど、もし見つければ自分も殺されることを承知で、ユダヤ人が逃げるのを助けたり、かくまったりした人々もいました。

1945年、世界大戦は終わろうとしていました。西側諸国とソ連の連合軍はドイツ軍に打ち勝ち、次々に収容所を解放していきました。そこにはまだ焼却されていない多くの死体が置き去りになっていました。その光景は、これまで人の思いにも及ばないほどの恐ろしい光景でした。(ホロコースト記念館ホームページより抜粋)

私たちはホロコーストとその犠牲になった人々を決して忘れてはいけません。そして、このような悲劇が再びくり返されることのないように、差別や偏見のない社会を築いていくことが必要です。

～2023年度 部落解放月間の啓発グッズをつくりました～



(作成の様子)

関金地区振興協議会人権教育部の部落解放月間における啓発活動として、啓発グッズを作成しています。今年度は、関金小学校・鴨川中学校の皆さんが絞りを入れた「絞り染めコースター」を作りました。

絞り染め模様がそれぞれ違うように、私たち人間もそれぞれ違っており比べようのない大切な存在です。

一人一人が大切にされること、周りの人を大切にすることはみんなで生きていくために欠かせません。

共生社会に向けて、差別を許さない人権尊重の社会を築きましょう。



8月のあたごふれあいサロンの

日時：8月25日(金)13:30～

内容：人権DVD鑑賞「シェアしてみたらわかったこと」

場所：あたごふれあい人権文化センター

(内容)

東京のどこかにあるシェアハウス。ここには、年齢も社会的立場も異なる人たちが、同じ屋根の下暮らしている。

上京して、期待を胸に入居したシェアハウス。そこに暮らしているのは、個性豊かな住人たち。この住人たちとの交流は戸惑いの連続だけど時間、空間、思いをシェアして初めて気づくこともある。私が、シェアしてみたらわかったことは・・・。

